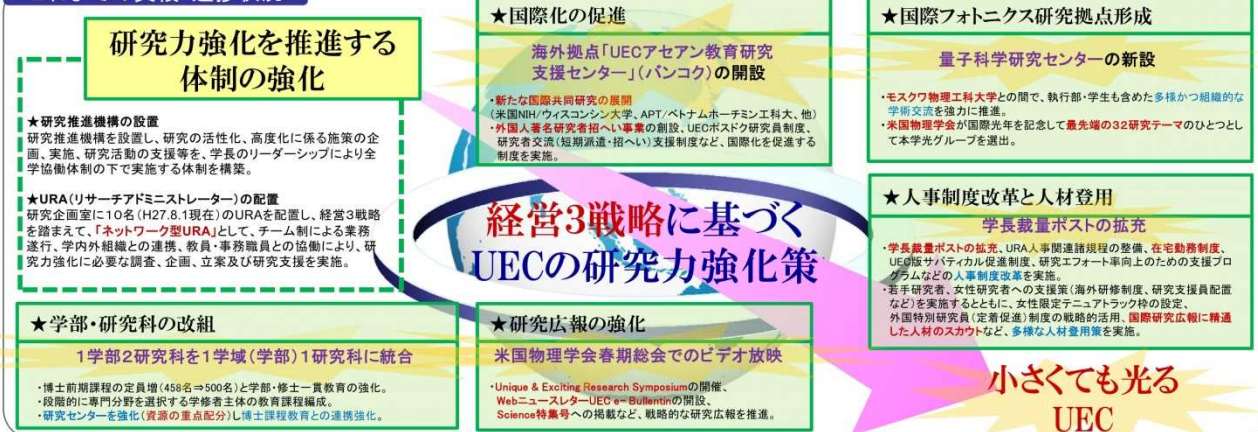


平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 電気通信大学

目的

「小さくても光る大学」を目指して、学長のリーダーシップにより、経営3戦略「**知のボーダレス化**」「**連携と協働**」「**開放性と透明性**」に基づく研究力強化策を推進する。
 ☆オープンイノベーションを指向する新たな大学院教育の実現 ☆ネットワーク型URAの確立による研究支援体制強化 ☆研究広報の強化
 ☆人事給与制度の抜本改革による人材登用の促進 ☆新たなフェローシップの創設による国際化の促進 ☆国際フォトニクス研究拠点の創設

これまでの実績・進捗状況



今後の課題と展望

研究力強化を推進する体制の強化	「ネットワーク型URA」としての活動により、新たな国際共同研究の獲得、民間との共同研究の増などの成果が生まれつつある。「つなぐ」機能により新たな価値を創造する「ネットワーク型URA」のモデル化に向けて、今後更に学外諸機関との連携関係を強化していく。
学部・研究科の改組	学部・研究科組織の一元化により、学長のリーダーシップによるガバナンス体制を強化。情報・理工学分野の強化と新たな融合分野（医工連携（ロボティクス）、電カスマートグリッド、ビッグデータアナリティクス）を創出。
人事制度改革と人材登用	拡充した学長裁量ポストを最大限に活用し、国内外からより一層の戦略的な人材獲得を推進する。
国際化の促進	米国、ベトナム、フランス、ロシアにおける海外拠点の形成に向けて、新たな国際共同研究を契機とする連携関係を更に強化していく。今後の国際共著率の向上にも期待。
国際フォトニクス研究拠点形成	モスクワ物理工科大学とのジョイントディグリーなど大学院教育も含めた、国際交流拠点への展開を期待。新設した量子科学センター及び既存のレーザー新世代研究センターが中心となって、2017年4月に竣工する100周年キャンパスUECアライアンスセンターに国際フォトニクス研究拠点を創設する。
研究広報の強化	国際連携室、広報センターなど関連組織の連携を強化し、英文ホームページの全面見直しなど国際的な研究広報をより一層強化していく。

フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 「小さくても光る大学」を目指し、学長のリーダーシップの下、組織の機動力を活かした取組が展開されつつある。
- 研究推進機構の設置により、全学協働体制で研究支援等を実施する体制を構築し、「ネットワーク型URA」として、チーム制によるURA制度の定着化を順調に進めていることが確認された。今後、これらを通じた成果の創出を期待したい。

特に優れた点

- URAの活動方針を策定し、様々なネットワークを活用して、「つなぐ」機能により、新たな価値の創造を目指す「ネットワーク型URA」として位置付け、URAのスキルアップのための体系的な研修システムを構築するとともに、他機関のURAとの連携、「首都圏URAバンク構想」など、独自の様々な組織的展開を進めており、ロールモデルとなることが期待される。

期待する点

- 研究体制の持続性を高めるためには、構想されている大学院強化策も含めたガバナンス改革の成功が必須であり、学長のリーダーシップによる実現を期待したい。